
 学 会 記 事

第 5 回新潟腹部救急医学研究会

日 時 平成 24 年 5 月 19 日 (土)
午後 3 時 30 分～6 時 30 分
会 場 ANA クラウンプラザホテル新潟
2 階 芙蓉の間

I. 一 般 演 題

1 80 歳以上の腹部緊急手術例の検討および後天性モルガニー孔ヘルニアの 1 例

植木 匡・石塚 大・多々 孝
石川 博補

柏崎総合医療センター外科

【対象と方法】80 歳以上を高齢者とし、2002 年からの 10 年間で検索した。

【結果】緊急手術での高齢者の割合は、前期 13% (55/435) に比べ後期が 21% (92/438) と増加していた。病態は、腸閉塞 60%、消化管穿孔 24%、腹腔内膿瘍 6% の順であった。腸閉塞の原因疾患は、ヘルニア嵌頓 60%、術後癒着 32%、悪性腫瘍 9%、その他 2% であった。症例として、比較的まれな Morgagni 孔ヘルニアを呈示する。

症例は 80 歳、女性。2011 年 6 月に前胸部を打撲後に軽度の嘔気が出現し近医を受診し、胸部レントゲンにて左横隔膜上にガスを伴う腫瘤像を認めた。食欲不振と嘔気が増強し翌日来院した。造影 CT で、右横隔膜上に肝腹側より脱出する腸管と大網を認め、緊急開腹手術を行った。ヘルニア内容を還納し、嚢を高位切離後、門を閉鎖した。

【結語】高齢者の緊急手術は近年増加し、ヘルニアが最も多い原因疾患であった。

2 80 歳以上の閉鎖孔ヘルニア手術症例についての検討

長谷川 潤・仲野 哲矢・下田 傑
萬羽 尚子・井上 真・内藤 哲也
谷 達夫・島影 尚弘

長岡赤十字病院外科

2009 年 1 月から 2011 年 12 月に当科で行われた閉鎖孔ヘルニア手術症例について臨床項目を検討した。

同時期の腹部緊急手術例は 79 歳以下 262 例で虫垂炎が 88 例と最も多く、閉鎖孔ヘルニアは 4 例であった。一方、80 歳以上 77 例のうち虫垂炎は 2 例に過ぎず、閉鎖孔ヘルニアは 12 例と目立って多く見られた。12 例の内訳は男性 1 例、女性 11 例。大腿痛は 4 例に見られた。全例 CT にて診断されていた。発症から手術までは緊急手術 10 例は 3 日、待機的手術 2 例は 7 日と 37 日。7 例にメッシュが用いられた。術後合併症は創感染は 2 例。心不全を呈した 1 例と腸管壊死から肺血症、DIC にて死亡した 1 例を除き経過順調であった。

閉鎖孔ヘルニアは比較的まれな疾患といわれていたが、高齢化、CT 診断の普及により増加していると考えられる。早期に診断、治療が行われれば高齢者とはいえず後は比較的良好と考えられる。

3 上腸間膜動脈血栓症に対する経カテーテル的血栓除去術後に発症した腸管狭窄の 1 例

古川 浩一¹⁾・山崎 俊幸²⁾・岩谷 昭²⁾
関口 博史³⁾・小林かおり³⁾・塩谷 基⁴⁾
橋立 英樹⁵⁾

新潟市民病院消化器内科¹⁾

同 消化器外科²⁾

同 救命救急センター³⁾

同 放射線科⁴⁾

同 病理科⁵⁾

症例は 60 歳代、男性。心房細動内服治療中。2011 年 11 月誘因なく急激な腹痛を自覚、冷汗を認め、近医受診し、当院救命救急センター搬送。